

牛久：学校周辺に見る自然

第13号 ひたち野うしく小

2012年6月23日発行

＜ オオカナダモの花が咲きました。 ＞

湿度の高さを感じる6/19、3年生との水辺公園探検前に、少し時間があつたので校内を歩きました。すると「水辺の塔の池」に白い花のかたまりが見え、近づいてみると、オオカナダモの花でした。



オオカナダモ (トチカガミ科)

Egeria densa



関東より西の浅い水中に群生する沈水性(体全体が水中に沈んで生活する)の多年草で、アルゼンチン原産の帰化植物です。大正時代に実験材料として輸入されたものが逃げ出したと考えられています。雄株と雌株とがありますが、日本に帰化しているものは雄株だけなので、花は雄花しか咲きませんし、もちろん実もできません。ですが、ち

ぎれた茎から盛んに繁殖します(「無性生殖」といって、中学校で学習します)。金魚店などで「アナカリス」という名で売られてもいますが、水質汚濁や低温にも強いので、霞ヶ浦や印旛沼などでも大繁殖している所があるそうです。雄花は「1日花」で、ふつう1日咲いて終わりますが、秋近くまで新しい花が順番に咲いていくので、ぜひ近くでながめてみて下さい。池に落ちないように気をつけて。

【理科支援員：宮内】



長い柄を伸ばし、水上に白い花弁3枚の雄花を咲かせる。日本には雄株しかないが、ちぎれた茎から繁殖できる。